















注目ポイント







- ✓FOMC(4/30~5/1)でパウエル議長が利上げの可能性は低いと発言したことや、米雇用統計が市場予想を下回ったことなどから、3月中旬から続いた米金利上昇は一服し、市場の話題は「いつから米国が利下げするのか?」に回帰。米金利の落ち着きとともに、米国のNYダウは8連騰し、史上最高値更新を視野に入れる水準まで上昇した。欧州でも独DAXや英国FTSEなど主要な株価指数が、連日史上最高値を更新している。一方、日本は日銀金融政策決定会合(4月)で、想定以上にタカ派な意見があったことが判明し、にわかに早期追加利上げに対する警戒感が台頭。ただし、ドル円については、気づけば1ドル=156円を再度うかがう円安に。日本の各市場は、方向感も出にくく、居所を探る展開が続く。
- ✓今週は、日本のGDP(2024/1~3)速報値(5/16)や、米国の物価関連指標(5/14PPI・5/15CPI)に注目が集まる。(門倉英司)






①マーケット動向(実績)

2024年5月6日 ~ 2024年5月10日

市場・指標		5月6日 ~ 5月10日		5月10日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)	
		高値	安値	終値	騰落幅	騰落率			
株式	日本 	日経平均(円)	38,863	37,958	38,229	-7	-0.0%		<ul style="list-style-type: none"> 日経平均株価は小幅下落。米株が続伸する流れを受け、東京市場でも連休明けの7日は半導体関連株を中心に買いが優勢となった。しかし米著名投資家が半導体大手の米エヌビディア株の持ち高を減らしたと伝わった翌8日には、一転して日本のハイテク銘柄が売り込まれる展開に。米欧の主要株価指数が5月に入り続伸するなか、日本株は売りも増え、上値は重かった。 NYダウは大幅上昇。米長期金利の上昇が一服していたことを受け、NYダウは5月に入り、昨年12月以来の8日続伸。4月1日以来の39千5百ドル台を回復し、過去最高値(39,807ドル)更新を視野に入れる展開となった。
	米国 	NYダウ(ドル)	39,580	38,689	39,513	+837	+2.2%		
	ドイツ 	DAX(ポイント)	18,846	18,001	18,773	+771	+4.3%		

市場・指標		5月6日 ~ 5月10日		5月10日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)
		最高	最低	終値	変化幅(%)			
金利(国債)	日本 	10年(%)	0.920	0.855	0.900	+0.000		<ul style="list-style-type: none"> 日本の長期金利は横ばい。日本の連休中に米長期金利が低下したことを受け、週初は国内債にも買い安心感があった。しかし、9日に日銀金融政策決定会合(4月分)の主な意見が公表されると、追加利上げや国債買い入れ減額を意識させる内容であったため、雰囲気は一転し、国内債は幅広い年限に売りが出る展開に。 米国の長期金利は小幅低下。一時の金利上昇懸念は、ほぼ沈静化し、年後半に利下げが始まるとの観測が意識され、先週は債券買い戻しの流れとなった。ただし、米国では翌週に物価指標の発表(14日PPI・15日CPI)を控えているため、債券相場の上値も重かった。
	米国 	10年(%)	4.52	4.42	4.50	-0.01		
	ドイツ 	10年(%)	2.52	2.42	2.52	+0.02		

市場・指標		5月6日 ~ 5月10日		5月10日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)
		高値	安値	終値	変化幅(円)			
為替	米ドル 	(円)	155.95	152.78	155.78	+2.73		<ul style="list-style-type: none"> ドル円は大幅な円安ドル高に。前週、大幅に円高ドル安が進んだ反動で、円売りドル買いが出やすい状況だった。市場ではFRBが年内に利下げを開始するとの観測はあるものの、開始までには時間がかかりそうだとの見方から、日米の金利差が広がった状態が今後も継続するとの見方が大勢。長期的スタンスでドルロングのポジションを持っている市場参加者も多いとみられる。 ユーロ円も大幅な円安ユーロ高に。対ドルでの円安に加えて、ユーロが対ドルで多少買われたこともあり、ユーロ円はドル円以上に円安が進んだ。
	ユーロ 	(円)	167.97	164.36	167.76	+3.04		
	豪ドル 	(円)	103.05	100.99	102.87	+1.72		

市場・指標		5月6日 ~ 5月10日		5月10日	前週末比		トレンド (直近2か月)	先週の動き (英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)	
		高値	安値	終値	騰落幅	騰落率			
その他	日本 	東証リート(ポイント)	1,839	1,795	1,807	-22	-1.2%		<ul style="list-style-type: none"> 東証リート指数は下落。想定以上にタカ派な内容であった日銀金融政策決定会合の主な意見が、早期追加利上げ観測につながり、リートの売りを誘う展開に。一方で、相対的に高い分配金利回り(4.5%程度)から押し目買いも散見され、下値も固い印象。 金先物は大幅上昇。米長期金利の上昇が一服したことから、金利のつかない資産である金先物の投資妙味が増すとみた買いが優勢な展開に。また週末10日にはイスラエルとイスラム組織ハマスとの衝突を巡り、カイロでの休戦交渉が合意に達しなかったと伝わり、安全資産とされる金先物は、大幅上昇。
	米国 	NY原油(ドル)	79.96	76.89	78.26	+0.2	+0.2%		
		NY金(ドル)	2,385	2,301	2,375	+66	+2.9%		

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(予想)

2024年5月13日 ~ 2024年5月17日

<p>株式 方向感なく、もみ合い</p> <p>日経平均株価 【予想レンジ】 37,750 円 ~ 38,750 円</p> <ul style="list-style-type: none"> 本邦企業の決算(2024/3)発表が佳境を迎えるなか、同時に発表される今年度の会社計画には弱さが目立つ。これまで日本株は、強気シナリオを織り込みながら水準を切り上げてきただけに、バリュエーション面で割高感も。一方で、今期の上場企業の想定為替レートは、1ドル=145円程度とみられ、足元の実勢よりも10円程度円高水準。現状のドル円の水準が維持されれば、逆に利益のアップサイドの材料に。 決算発表や為替動向に反応しながら、もみ合う展開を予想。 	<p>直近1年</p> <p>※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成</p>
<p>金利(国債) 弱含み、もみ合いか</p> <p>10年国債利回り 【予想レンジ】 0.880 % ~ 0.950 %</p> <ul style="list-style-type: none"> 先週公表された、日銀金融政策決定会合(4月)の主な意見が、早期の追加利上げや国債買入れ額の減額を連想させるなど、想定以上にタカ派な内容であったことで、にわかに警戒感が台頭。米金利上昇がようやく一服したにもかかわらず、国内債券はジリ安の展開に。 今週も、市場の想定より追加利上げ時期が早まる可能性などを意識しながら、新発国債の入札(14日5年債・16日20年債)が実施される。上値が重い展開が続くと予想。 	<p>直近1年</p> <p>※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成</p>
<p>為替(米ドル) 上値を試す展開、ただし介入に注意</p> <p>米ドル/円 【予想レンジ】 154.00 円 ~ 158.00 円</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国の堅調な景気とインフレ率の高止まりを背景に、市場でFRBの利下げ開始は早くても秋以降とみられている。現行の政策金利を長期間維持する可能性から、日米の大幅な金利差が引き続きドル買い要因に。しかし、政府・日銀がゴールデンウィーク期間中、円買いドル売り介入を実施したとみられる水準(1ドル=158円~160円)が、近づくにつれ上値が重くはなるだろう。また、米国の物価指標(14日PPI・15日CPI)の結果次第では、円安円高両サイドに値動きが大きくなる可能性も。 今週のドル円は、為替介入を意識しながらも、上値を試す展開を予想。 	<p>直近1年</p> <p>※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成</p>

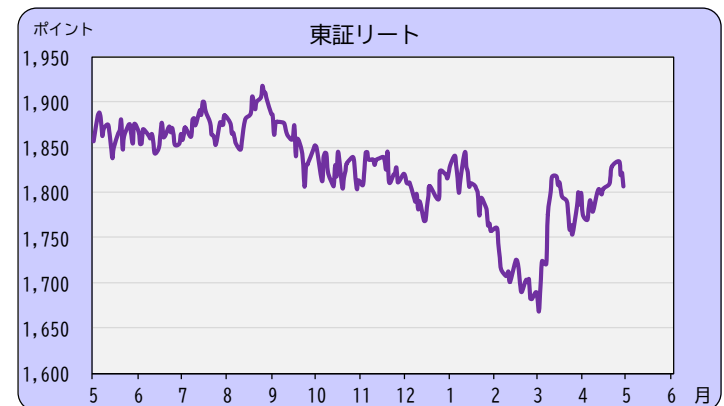
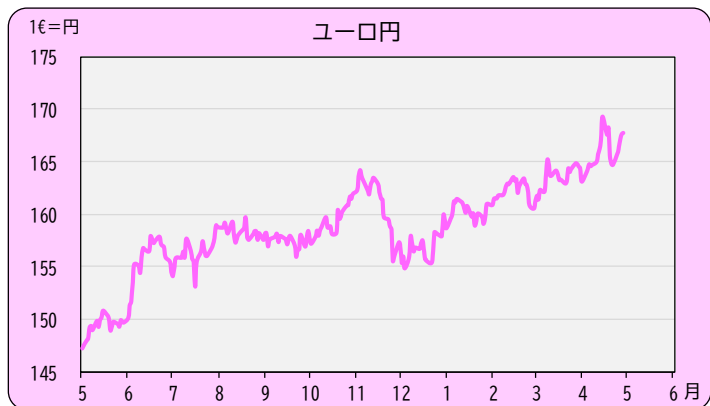
英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。

○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
5/13(月)		
5/14(火)	5年物利付国債の入札 国内企業物価指数(4月)	米国: PPI(4月)
5/15(水)		米国: CPI(4月) 米国: 小売売上高(4月)
5/16(木)	20年物利付国債の入札 GDP(1~3月)一次速報値	米国: 住宅着工件数(4月) 米国: フィラデルフィア連銀景気指数(5月)
5/17(金)		米国: 景気先行指標総合指数(4月)

③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
CTFC	米商品先物取引委員会	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FFレート	フェデラルファンド金利	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率	YCC	イールドカーブコントロール

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。